

研究開発成果の一層の活用に向けて(議論のためのメモ)

1. 科学技術イノベーションの推進、限られたリソースの中での効率的な実施の観点より、国の公的資金を用いた研究開発の成果については、広く活用されることが重要。
2. 現在、公的資金を用いた研究開発成果である科学技術データを広く活用できるようにする取り組みがなされている。また、国際的にも国際科学会議(ICSU)における世界科学データシステム(WDS)構想の取組がなされている。

※文部科学省研究開発施設共用等促進費補助金、厚生労働科学研究費補助金においては、研究実施者が論文発表等で公表した成果に関わる生データの複製物、又は事業で構築した公開用データベースの複製物をバイオサイエンスデータベースセンター等に提供するものとされている。また、提供された複製物は非独占的に複製・改変その他必要な形で利用できるとされている

※別紙参照

3. 一方、科学技術データについては、知的財産、個人情報保護等の観点より、一概に全てをオープンにすることが困難な場合もある。
4. このため、公的資金を用いた研究開発成果である科学技術データの取扱いや国際的な連携について検討を深めていくことが重要と考えられる。

(参考: 第9回科学技術イノベーション政策推進専門調査会(平成24年12月20日)資料「ライフイノベーション促進のための仕組みの改革について(中間とりまとめ)」抜粋) 公的研究資金を利用したライフサイエンス分野の研究成果をデータベースセンター拠点に統合すること、また、公的研究資金の配分にあたっては、例えば、本データベースに研究成果であるデータの提供を要件として課すことについて、検討する。

5. ICT-WGにおいても、情報通信技術としての観点より、4の課題に対して検討を行っていくことが必要ではないか。

科学技術データ活用に向けたイメージ

公開する科学技術データ

研究開発成果として得られた科学技術データ

知的財産・個人情報保護
などの観点

◆ 科学技術データなどを広く活用できるようにするためには、以下のようなことが重要ではないか

- 何処にどのようなデータがあるかが分かること
- データに対するセキュリティの確保
- 複数のデータベースを、組み合わせて使えること
- 機械判読が容易なデータの形式
- 国内関係機関間、国際的な連携がとれること

何処にどのようなデータ
があるかが分かること

データに対する
セキュリティの確保

複数のデータベースを、
組み合わせて使えること

機械判読が容易な
データの形式

国内関係機関間、国際的な連携がとれること

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

世界科学データシステム

- ◆ 国際学術機関である国際科学会議(ICSU)は、世界各国の研究機関が分散して管理する多様な科学データの有機的な連携を図るため、「世界科学データシステム(WDS)」プログラムを発表し、推進中。

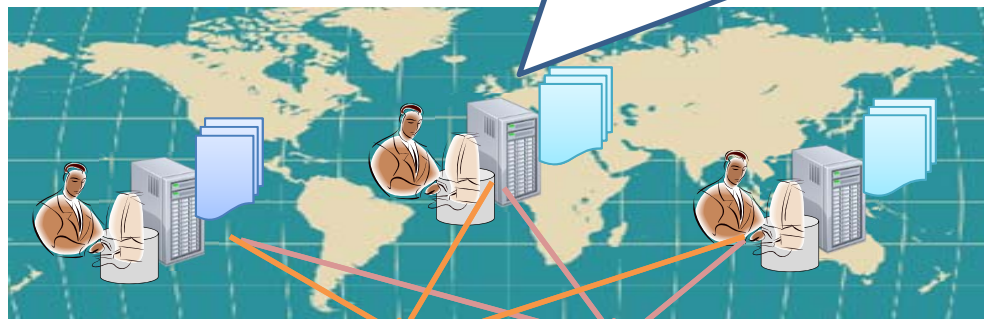
国際科学会議(ICSU:International Council for Science)

世界科学データシステム(WDS:World Data System)

- ・品質管理された科学データへの公平なアクセスの確保
- ・長期間のデータ管理
- ・共通性・運用性の向上 等

科学データ保有機関(100機関以上予定)

国際科学会議(ICSU)
世界科学データシステム
科学委員会(WDS SC)



現象・
イベント
情報

データ
ファイル
情報

利用



世界の様々な科学データを
あたかも1つのデータベースとして
利用可能

異分野間の現象・事象
の相関発見等

研究者



国際プログラムオフィス